

長門町から東本町へ

杉並区

山岸澄子（東本町出身）

昭和五年四月、私が小学校に入る時父から「ここは長門町でなく東本町二丁目に変わるんだよ」と言われました。子供のこととて高田市の町名が全部変わるも何も分かりませんでしたし、難しい名前を覚えなければと一生懸命でした。

でも、中殿町（西城町二）の叔母さん、呉服町（本町三）のおじさん、家からは少し遠いけれど小学校の頃よく通ったお馬出し（本町二）の歯医者さんなど、古い名前の方が頭に残っていました。その他今でも頭に浮かぶのは中屋敷（東本町三）、編屋町（東本町五）、下小町（本町六）、碗屋町（本町五）と家から割に近い所、又遠足でよく通った陀羅尼（北本町二）、大手町小学校も岡島町（大手町）にあったので岡島小学校と言っていましたね。こんな事を言っても昔の名前を懐か

しんで下さる方は七十、八十才以上の方でしょう。

私が嫁いだ山岸の家は横春日町（南本町三）から尾張町（南城町一）へ大正時代に越したのでしょうか何時までも「尾張町の山岸」で通っていました。私は尾張町に嫁きましたが、主人は東京の役所勤めでしたから、すぐ東京へ移りました。その後疎開で高田へ帰り終戦は高田で迎えました。又東京へ戻り五十年ほど前から現在の杉並に住んでおります。

話は変わりますが、高田と言えば雪、東京に住んでいて雪が降り、その上積もったりすると私は嬉しくなってしまう。何年か前、出かける予定の朝珍しく雪が積もりまだ降っていました。私はいつも億劫になる地下鉄の駅までの道のりを、

雪を踏む足の感触を楽しみつつ、せつせと歩いたので「もう駅に着いてしまった」と駅が近くて残念な気がしました。その日集まった人達にこの話をする、「このお天気を喜ぶなんて山岸さんしかいませんよ」と笑われてしまいました。

「年をとったら高田に住みたいな」と言っていた主人も晩年にはその気力もなくなり、高田でなく、あの世へ行ってからもう三年になります。私も高田を懐かしみつつ、終生この地で暮らすことになりそうです。



クラス会旅行 右から二人目が山岸さん

